

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193700010		
法人名	社会福祉法人 幸清会		
事業所名	グループホームぬく杜の郷しおさい		
所在地	北海道虻田郡豊浦町字浜町17番地3		
自己評価作成日	平成28年11月29日	評価結果市町村受理日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_Q22_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700010-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_Q22_kani=true&amp;JigyosyoCd=0193700010-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシエ研究所
所在地	江別市幸町31番地9
訪問調査日	平成 28 年 12 月 14 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の実現に向け一人一人の職員がスキルアップに努め連携を図っています。人材育成・地域貢献・啓発活動に力を入れ『認知症ケア』の地域拠点となるべく関係機関及び近隣住民・ボランティアの方との連携を深めています。具体的には、認知症カフェ、認知症サポーター養成講座・ケアケア交流講座を定期的に開催し開かれた事業所運営に努めています。

また本年度は、新たな試みとして「認知症キッズサポーター養成講座」を開催、地元行政との連携を図り中学校の授業の一環として講座を行い実習等を受け入れ、介護の仕事の楽しさややりがい、必要性を理解して頂けるような取組みを行っています。

更には自然災害や火災を想定した避難訓練には、地域住民・自治会長への参加協力を求め、地域との連携を深めると共に備蓄品や避難所確保を積極的に行っています。

開設9年目を迎え入居者の方一人一人に沿った『個別ケア』に重点をおくことで、入居者の皆様・ご家族の皆様との信頼関係が年々深まっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームぬく杜の郷しおさいは、内浦湾の海浜公園に面しており、時間の流れと共に変化する海や空の景色を居間の大きな窓から眺めることができます。地域の催しや事業所の祭りなどの行事には相互に参加があります。地域の学校とも交流を行っており、学校祭に訪問したり、職業体験で事業所の日常の様子を知ってもらい、利用者が高齢で認知症になっても地域の中で穏やかに毎日を過ごす様子を若い世代に伝えています。週1回開催される認知症カフェは事業所内の一室でボランティアにより運営されており、利用者はお茶を飲みながら地域からの参加者と言葉を交わしています。運営推進会議には、自治会をはじめ多様なメンバーの出席を得ており、意見や情報を運営に反映しています。家族参加型のぶどう狩りは、恒例行事になっています。ぶどう狩りに参加出来ない利用者は職員と一緒に個別外出を行っています。管理者は、日々の業務では職員の自主性を重んじ、時折助言をする程度にとどめています。職員は利用者が何を望んでいるかを見極め、満足感に繋がるケアサービスに取り組んでいます。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/> 1 毎日ある <input type="radio"/> 2 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3 たまにある <input type="radio"/> 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/> 1 ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3 たまに <input type="radio"/> 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1 大いに増えている <input type="radio"/> 2 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3 あまり増えていない <input type="radio"/> 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1 ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4 ほとんどいない			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やユニットに掲示し、職員は理念カードを携帯しいつでも理念を確認できる状況にある。常に理念を念頭に置きながら日々ケアにあたっている。又、職員会議にて理念の音読を行っています。	法人理念を共有し、さらに地域密着型サービスの意義を踏まえた各ユニットの理念を策定しています。理念を事業所内に掲示し会議で唱和するなど、職員の意識統一を図っています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小・中学校の運動会、豊浦町ふれあい健康作りスポーツ大会へ参加したり子ども会の廃品回収への協力を行なっています。避難訓練や夏祭りには町内会長様や近隣住人の方にも参加して頂き交流を図っています。又、ぬく杜カフェを開催し交流を図る場を設けています。	自治会には加入していませんが、祭りなど地域や事業所の行事には相互の参加があります。行事を通して小・中学生の子ども達とのふれ合いの機会があります。ボランティア主催の認知症カフェで利用者は地域からの参加者と言葉を交わしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	豊浦中学生・シユタイナー学園の実習受け入れや認知症サポーター養成講座を定期開催しています。毎週土曜日にぬく杜カフェを開催し専門職が認知症を理解して頂けるよう取り組んでいます。又、ケアケア交流講座を実施しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動状況や事業内容を報告し、情報や意見交換を行うことで施設サービス向上に努めています。又、職員へは回覧にて周知しています。	運営推進会議は、行政関係者、地域関係者、家族の出席を得て2カ月毎に開催しています。事故報告や災害対策等に意見交換があり運営に反映しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町主催の避難訓練や地域ケア会議に出席したり、運営推進会議等、行き来すると共に利用者の入退居状況などを直接訪問して報告を行っている他、情報交換を行い協力関係を築いています。	町主催の地震、津波想定避難訓練に職員と利用者が参加し、地域ケア会議には管理者が参加しています。事故報告書等の提出物は役職者が担当窓口に出向き、助言をケアサービス等に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束チェックシート表を全職員が定期的に行い、全職員が身体拘束廃止、高齢者虐待防止の事業所内研修会に参加しています。又、ユニット会議や職員会議の中で話し合いの場を持ち身体拘束のないケアに取り組んでいます。管理者からの個人面談や情報提供もあります。	職員は身体拘束の具体例やその弊害について、外部・内部研修などで理解に努め、さらに年4回「職員倫理綱領」に基づく行動チェック表に沿って自己評価を行っています。職員間でも注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修でも取り上げている。全職員が身体拘束廃止・高齢者虐待の事業所内研修に参加し、虐待の種類についてまとめられた携帯用の書面を配布しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者及び一部職員は外部研修にて地域権利擁護事業について学び、また職員にもその内容の周知も行っている。また玄関及びユニットにパンフレットを備え、いつでも必要な方に活用できる体勢を整えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の当日には、予め時間がかかる事を伝え、十分に説明する時間を設け、ゆったりとした雰囲気での不安・疑問点を訴えやすいように心がけています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者・計画作成担当者が中心としてスタッフ全員が、利用者の意見等が無いかを観察し問題点を解決できるようにしている。重要事項説明書の説明の際には、ホーム内の窓口及び第三者機関の窓口について必ず説明している。又、玄関に苦情・相談用の箱を設置し、ご家族の要望が出やすいように働きかけています。	毎月、ユニット毎に「通信」と個別のお便りを家族に送っています。関わりの中から利用者や家族の要望を捉え、職員間で解決策を検討しています。意見等の中で、個別の支援にも関連するものはケアプランにも取り入れ、利用者や家族の安心や満足に繋げています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	採用時の面接の際にスタッフが同席したり、勤務表の作成・必要物品の購入、研修の参加者の選定などを中心に職員の意見を聞き、運営に反映されるようにしている。また行事等については職員を中心に企画し、管理者が補足するような形で連携しています。	役職者は日常業務や会議等で職員の意見や要望を受け止め運営に活かすよう努めています。職員は、研修や防災等の業務を分担し、持てる力を発揮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適性や資格等を見極めた上で、能力向上のための課題提起などを行い、努力の評価と一緒に起こったり、資格取得のための支援などを行っている。又、給与規程に定められた職位・職責により、給料体系が定められています。(キャリアパス)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は法人内で独自の研修制度を設け、対象を勤務年数別に定めているため、管理者が対象者を決定し受講させている。研修委員会にて年間計画を立て、全職員が学ぶ機会を設けている。又、講師は全職員が担当し自分で学び知識習得が出来るよう取り組みをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	地域のグループホーム広域連絡会(豊浦町・洞爺湖町・伊達市・室蘭市・登別市)にも加入し、研修会への参加や意見交換を行っている。法人研修会に参加し同業者同士の繋がりを大切に、情報交換を行っている。今年度からは相互評価にも参加し、他法人との情報交換を行う機会も増えています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前に訪問し、情報を集め居室内の家具の配置等にも配慮しています。ご家族やご本人に見学に来て頂き、ホームの生活の様子を見ていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談から利用までは必ず本人と家族の見学を勧め、ホームとしてできること、できないことの説明や入居後の費用等必ず説明した上で、申し込みの判断を求めている。入居検討時、及び契約時に説明を行い、了承を得ています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内で特別養護老人ホーム、老人保健施設を運営しており、管理者が他のサービスについても役割・内容を把握しているため、必要な支援を見極めて対応している。一度見極めた上で特別養護老人ホーム及び老人保健施設を紹介し、サービス利用につなげたこともあります		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ・入居者がお互いに支え合う関係を築き、アセスメントを再確認しながら、生きがいを持って過ごして頂けるよう、取り組んでいます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が抱えている利用者に対する思いも受け止めながら、認知症に対するケアの考え方を共有したり、入居者の生活歴を聞き、その人らしい生活を実現するための課題について相談するなど、家族にも助けてもらいながら、その利用者を支えるようにしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意向を汲みながら、地域の美容室、歯科など社会資源を積極的に利用し、関係が途切れないようにしている。町外からも多くの利用者が入居されているのが現状で、地域資源を利用したなじみの関係の継続は難しいという部分もあります。	地元以外から入居した利用者も多いため知人との関わりは多くありませんが、美容室や買い物、地域の行事への参加をしています。ボランティアによる認知症カフェ等で地域の方々と馴染みの関係になるよう支援しています。墓参りや法事は、家族が同行しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとり、個々の時間を大切にしながらも、ユニット内での環境を考慮し、料理などの家事作業やお茶の時間を共有し、社会的に孤立をしないようにスタッフが間に入り利用者同士コミュニケーションを図りやすい環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院や他施設へ入所された方の様子を、入所先の関係者へ確認したり、お見舞いへ行き関係が途切れないよう支援しています。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりについて、生活要望書を用いて本人の意向を考慮しながら、よりよい暮らしをする事ができる様に援助している。居室訪問時には、希望や要望が無いか聞き取りを行っています。	日々の関わりの中で、利用者に行事への出欠を問うなど自己決定を大切にしています。生活歴や家族からの情報を参考に、利用者が望む生活支援になるよう職員間で協議しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、関係サービス提供機関(居宅介護支援事業所等)やご家族から生活歴など、必要な情報を収集した上でアセスメントを行い、サービス提供に生かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ一人一人が入居者個々の身体状況・気持を観察しながら、ケース記録や引継ぎなどにより、情報を共有するように努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者、担当スタッフを中心として、ご本人、ご家族の介護に対する意向を十分に考慮した上で計画の作成を行っている。ユニット会議の中でもカンファレンスを開催しています。	ケアプラン作成時は利用者や家族から生活に対する要望を収集し、職員全員で適切な支援になるよう検討しています。利用者にはケアプランを具体化した「生活の目標」を説明し、居室の壁面に貼っています。	個別の介護記録は詳細に記録されていますが、ケアプランとの連動性が十分でなく、ケアプランの実践が介護記録で容易に確認できる書式の見直しを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	提供しているケアや、利用者の日々の様子について、ケース記録・カンファレンスなどで一日の流れについて把握し、送り帳等で情報の共有を行い、介護計画を更新する上で生かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	事業所の持つ様々な機能(ぬく杜カフェの利用)を生かし、慰問を受け入れたり、カラオケ等が行える様、支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練等では消防署の協力を仰ぎ、避難・消火訓練、救急救命講習の実施など協力を頂いている。地域のボランティアにイベントお手伝いの協力を仰いでいる。地域住民も避難訓練に参加して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今後のことなどを考慮し同意のもと協力医療機関へ切替を依頼していますが、医療機関との関係は非常に良好であり時間外受診等も柔軟に対応して下さっています。またその他の専門医についても長年のかかりつけ医を中心に継続した通院支援をご家族と共にしています。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は、家族の協力を得ながら支援しています。殆どの利用者は協力医を主治医とし、月1回の往診や急変時の往診態勢も整えています。看護師による週5回の健康チェックもあり、健康管理が適切に行えるようにしています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護職員を1名確保し、専門的な立場・知識を活かしながら日常の健康管理や地域医療機関との連携を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院した際には、早期より病院のケースワーカーと連絡をとり、必要な治療が終わり次第、ホームに戻る事が出来る様、情報交換を密に行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針について、看護職員、協力医療機関と指針をまとめている。スタッフの知識不足がみられる為、研修に参加し知識を深めていく必要がある。毎年、施設内研修にて受け知識・技術の向上に努めていますが、外部研修の参加も行い向上に努めていきます。	入居時に利用者や家族に重度化や終末期における指針を説明し、同意書を得ています。医療機関との連携が整わずこれまで看取りは行っていませんが、事業所で生活している間は最大限の支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに急変時のマニュアルや緊急連絡網を置き、救急救命講習を全職員が定期的に通講し、応急手当や初期対応について学んでいる。他、AED設置施設であり、施設内研修でAED研修会を行い全職員が対応出来るように取り組んでいます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会いの避難訓練を年2回以上行う計画を立て、近隣に在住する職員も駆けつけて避難できる体勢を取っている。また、地域の方々の協力も得られるように働き掛け努めています。	消防署の指導のもと、地域の協力を得て、年2回日中・夜間想定避難訓練と年3回の自主訓練を実施しています。町主催の地震、津波想定避難訓練への参加や、ユニット毎に毎日防災チェックを行うなど、災害への意識統一を図っています。	
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライド・プライバシーに関わる事については、考慮し時には耳元でそっと声をかけている。記録等についても保管場所について定め、第三者の目に入らないようにしています。	接遇については、業務の中で役職者はもとより職員同士でも注意し合っています。さらに、内部研修で学びを深めています。言葉の使い方や排泄、入浴時の羞恥心への対応にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思・希望を聞きながら、出来る限りご要望にそう事が出来るように努めている。説明は、認知症の人でもその人の理解力に合わせた声掛けをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴したい時間・食事時間をずらしたり、散歩等の外出支援など希望を把握し、出来る限りその人らしいペースで生活ができる様に配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活の中で利用していた理美容店へ出かけたりする等、利用者にとってのこだわりについてアセスメントを行っています。重度化に伴い美容室へ行けない方は契約者よりヘアカットの要望があり身だしなみには配慮しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・片付け等はその時の利用者の気持ちに配慮しながら、一緒に行う事ができる様に配慮をしている。利用者から嗜好を聞きメニューへ取り入れている。個々に合わせた食事提供方法を行っています(食事形態、栄養補給剤等)	利用者の嗜好調査票を参考に献立を作成しています。利用者の誕生日には、希望の献立や外食要望にも応えています。食材をアレンジしたり、菜園で採れた野菜を食材に活用するなど、食の楽しみに繋がっています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量については記録をつけ把握をし、又、欠食等、普段とは違った様子が見られる場合には記録へ残りスタッフ間で引継ぎを行っている。また補助食品など代替食も用意しその日の献立では食が進まないときには違う食事も提供できるようにしています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、就寝前に口腔ケアを行っている。その他、食事等によって口腔内に食物残渣等が見られる場合には、随時、清潔を保つことができる様に援助を行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンシートを活用し、個々の間隔に合せ定期的に誘導を行い失禁予防に努めています。失禁等の失敗があったとしても排泄に対する精神的な負担が軽減されるように努めています。	利用者全員の排泄チェック表をもとに声かけや誘導を行い、トイレでの排泄支援に取り組んでいます。結果として排泄の失敗を減らし、衛生用品の使用の軽減になっています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンシートを活用し、排便の把握を行い便秘の方には腹部マッサージや、乳製品、繊維質の物を多く提供する等、便秘予防を行っています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本人の希望に添って入浴して頂いています。本人の了解が得られたタイミングで入浴へお誘いしています。時間や曜日、お湯の温度などは特に設定せず希望にあわせて入浴して頂いている。乾燥予防に入浴剤を利用しており、香りや色も楽しんで頂いています。	利用者の希望により毎日入浴することができます。同性介助を基本とし週2回以上の入浴支援を行っています。入浴を拒む利用者には工夫しながら、意思確認をしています。利用者の状態により介助者が2名で対応し入浴剤入りの湯船でゆっくり出来るよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	光量や室温、湿度などに注意を払い、過ごしやすく安眠しやすい環境を整えています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報のファイルを作り、利用者がどんな薬を服用しているかを把握できるようにしている。服薬マニュアルを作成し、マニュアルに沿って服薬介助を行っています。毎月、ユニット会議にて服薬方法の実践確認を行っています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を洗い出し、得意だったことをしていただく事でご本人の意欲を引き出したり、楽しめる場を作って、楽しく過ごす事ができる様にしている。他、重度化に伴い、個別ケアにて個々の能力にあわせ支援して行ける様取り組んでいます。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物・ドライブなど、その人の希望に応じたり、または誘い出すなどして出かけ、ホームに閉じこもることがないように配慮している。急な外出に関しては難しく、要望書を活用し日程・計画を組み実地しています。少ない時間でも買い物やドライブへ出かけられるよう支援しています。	利用者は職員と一緒に周辺の散歩やコンビニ、自動販売機で買い物をしています。利用者の高齢化などに伴い外出の希望はなかなかありませんが職員から声を掛けて外気浴や外出の機会を増やすよう取り組んでいます。恒例のブドウ狩りは家族も参加しています。参加出来ない利用者には、個別の外出支援を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理し支払うことの大切さを考え、ご家族に対して紛失に対するリスクの説明を行い協力をいただきながら、自分で管理する事ができるように支援している。金銭管理が難しくなった時には、ご家族と検討し立て替え金に切り替えています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームのコードレス電話を自由に使っていただいたりして、外部との連絡がとりやすいようにしています。又、携帯電話等も可能です。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる事ができる様な飾りつけを行い、家庭的な雰囲気が出されるように配慮している。本人、ご家族と相談し、担当者を中心に居室内の様様替えを行っています。	居間の大きな窓からは内浦湾やキャンプ場等が間近に見られます。採光や温湿度等にも配慮があります。節句など季節を祝う催しに合わせた室内の飾り付けを行っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係や、その人の性格なども見ながら、リビングとサブリビングを使い分けながら、工夫をしています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の打ち合わせの段階において、本人が使い慣れたものを持ち込む利点について説明し、協力をお願いしている。また入居後もご家族に定期的に相談し、ご本人の反応を見ながら、少しずつ居心地良い空間になるよう配慮しています。	7.5畳ある居室に温湿度計を用意し、乾燥防止に洗濯物を干すなど快適な湿度になるよう配慮しています。居室には、馴染みの家具や生活用品、利用者や家族の写真、趣味の物等があり、利用者それぞれの個性が表れています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時より建物内におけるトイレや手洗いの高さに配慮し手すりも随所に設置している。又、2ヶ月に1度安全衛生会議を開催し、建物等においてもリスクとなる箇所はないかを確認し安全が確保できるように努めています。			